

# カナイワ「地中熱」に力

## 国推進の省エネ空調・給湯

井戸掘削などを手掛

ける土木業のカナイワ（金沢市）は、地中熱エネルギーを利用した空調・給湯設備事業に乗り出している。二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出が少ない省エネ技術で、冷暖房費を削減できるとも強調し、北陸企業に提案してい

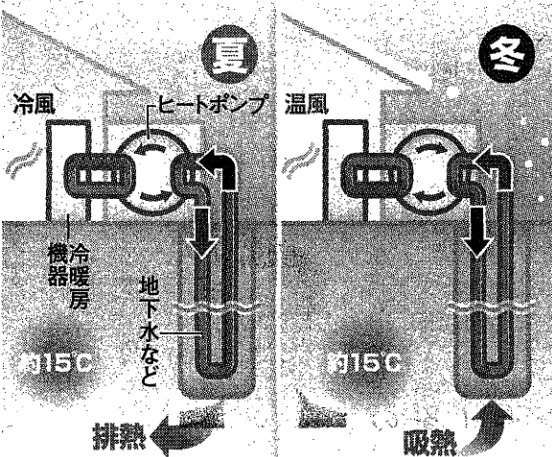
たという。

第一号の施工実績として、昨年二月に金沢市内の病院に設置した。重油を使うボイラ設備と比べ、十一月で建物全体のCO<sub>2</sub>排出量が37%減。冷暖房費と給湯費も、冬場は八割減、夏場は三割減となり大幅に抑制でき

同社の設備は、地中熱によって地下水が年間通じて約一五度にな

っていることを利用。地下百メートルまで配管を通し、地下水を循環させる。エアコンの心臓部に当たるヒートポンプが、冬は地下水から熱を受け取り、夏は

### 地中熱エネルギーの仕組み



地下水に熱を逃がす。ヒートポンプの負担が少なくなる。冷暖房費が少なくなる。外気を使った冷暖房よりヒートポンプの負担が少なくなる。

同社は公共事業の減額・給湯は、国が省エネ技術として推進。北環境関連事業への進出を検討してきた。二年前にヒートポンプ設備メーカーのゼネラルヒートポンプ工業（名古屋）と提携。担当部署を立ち上げて、営業を図っている。普輪崎賢彦社長は「地下を扱う技術には自信がある。医療機関や温浴施設に売り込みたい」と話している。

地中熱を利用した空